

* 会長に就任して思うこと *



(公社)日本精神保健福祉士協会富山県支部 支部長
富山県精神保健福祉士協会 会長
医療法人社団緑心会 砺波サナトリウム福井病院 事務局長

福井 淳夫

平成 26 年 5 月の総会において承認され会長に就任いたしました。協会設立以来役員をしておりましたが、会長となり重責に身が引き締まる思いでいます。

平成 8 年に日本精神医学ソーシャルワーカー協会富山県支部として設立し、その後精神保健福祉士国家資格に伴い、日本精神保健福祉士協会富山県支部と名称を変更し平成 17 年には富山県精神保健福祉士協会となり、協会発足から 20 年が経過しようとしています。当初約 40 名であった会員は現在では 230 名を超えるまでになり、働く分野も医療・福祉から、介護、行政、教育、司法等の関連領域まで、幅広く活動しています。

しかしながら、長期入院者の退院支援はまだ道半ばと言わざるを得ないのが現状です。本年度も引き続き富山県からの補助を活用し地域移行支援を進める人材の育成に努めるとともに関係機関との連携をさらに進めていきます。また、富山県からの委託事業であるピア・フレンズ養成事業についても、当事者の養成研修会の開催と受講修了者の活動の支援を継続していきます。我々、精神保健福祉士が大切にしてきた当事者から学ぶ姿勢を堅持し、その方が求める支援とは何かをともに考え、関係する機関と連携して取組を進め、時に、現在の法制度が現状に適していない場合があれば、積極的に必要な提言を行っていくことも協会の重要な活動だと考えています。

研修部では、新卒者・初任者研修を開催し、新規入職者への具体的な業務の研修会に加え、研鑽研修、課題別研修及び各地域でのブロック研修会を開催し、より多くの会員の積極的な参加により、会員の資質の向上をさらに強力で推し進めたいと考えています。

また、企画部においては、地域生活支援員委員会と当事者活動支援委員会を設置し、現状の分析から、これからの課題について提言をまとめる作業を引き続き行います。さらに、昨年度から自主企画として開始した退院後生活環境相談員・相談支援専門員・デイケアの連絡会についても引き続き開催し、そこで集約された意見を会員の業務に生かせるような仕組みを作りたいと考えています。

協会が発足から 20 年を迎える本年度は、協会の活動の歴史を振り返りつつ、これからの協会活動の展望を見据え、それぞれの会員が本協会の会員としての認識を持ち、自らの研鑽と資質の向上を目指し様々な活動に意欲的に参加し、ともに学ぶ活動を推進して行きたいと考えています。